



平成 17 年 2 月 4 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ニ ッ シ ン  
代表者の役職氏名 代表取締役社長 寄岡 邦彦  
(東証・第一部 コード番号: 8571)  
問 い 合 わ せ 先 常務取締役管理本部長 檜垣 均  
電 話 番 号 (東京) 03 - 3348 - 2424

### 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成 16 年 11 月 4 日の中間決算発表時に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 通期の業績予想数値(日本基準)の修正(平成 16 年 4 月 1 日～平成 17 年 3 月 31 日)

(1) 個 別 (単位: 百万円・%)

	営業収益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	32,642	7,580	6,591
今回修正予想 (B)	32,157	7,625	6,001
増減額 (B - A)	485	45	590
増減率 (%)	1.4	0.5	8.9
(ご参考) 前期実績 (平成 16 年 3 月期)	40,795	10,596	5,483

(2) 連 結 (単位: 百万円・%)

	営業収益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	42,376	8,878	8,577
今回修正予想 (B)	43,460	8,753	6,854
増減額 (B - A)	1,084	125	1,723
増減率 (%)	2.5	1.4	20.0
(ご参考) 前期実績 (平成 16 年 3 月期)	45,693	11,112	6,186

## 2. 業績予想数値修正（日本基準）の理由

### （1）個別

経常利益まではほぼ予定通り推移しておりますが、当第4四半期の特別損益の部において、当社が保有する㈱ベンチャー・リンクの全株式を事業上の関連性の高いN I Sリース㈱（当社の100%子会社）へ譲渡することに伴う投資有価証券売却損（連結上は投資有価証券評価損）とその他の保有有価証券の見直しを行うことに伴う投資有価証券売却損益の発生による株式関連損失の合計約9億円に加え、営業システムの入替えを契機に資産の効率化を実施したことにより固定資産除却損及びリース解約損が合計約6億円発生することが見込まれることによるものであります。

### （2）連結

個別業績と同様の理由に加え、当第3四半期において財務体質の健全性を一層高めることを目的として連結調整勘定等の償却方法を5年間の均等償却から発生時に一括償却に変更する「会計処理方法の変更」を実施したことに伴い、特別損失として連結調整勘定等の償却額が約8億円発生したことによるものであります。

## 3. 将来予測に関する記述について

本資料には、当社グループの意図、信念、現在および将来の予測、又は連結、個別の業績、財務状況に関する経営陣の意図、信念、現在および将来の予測に関する記述が収録されております。記載されている歴史的事実以外の将来に関する全ての記述につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測であります。かかる将来予測に関する記述は、将来の業績を保証するものではなく、潜在的なリスクや不確実性を伴うものであり、実際の業績は様々な要因により将来予測に関する記述とは大きく異なる可能性がありますのでご注意ください。

実際の業績に影響を与えうる潜在的なリスクや不確実性を伴う要因には、以下のようなものが含まれます。

- ・ 日本国内の経済環境の悪化
- ・ 消費者金融企業および金融機関等による顧客獲得競争の激化
- ・ 業界全般および当社グループに対するネガティブな報道、不祥事の影響
- ・ 日本国内又は米国の法律による規制に伴う影響並びに新たな法令の施行および法改正の影響
- ・ 債務者保護を目的とした法的手段の多様化および法改正の影響
- ・ 好条件での資金調達先の有無および金融政策等の変更による影響
- ・ 当社グループの利用する情報、基幹システムおよびネットワークシステムの信頼性
- ・ 代表取締役社長一族による重要な決議に対する影響力
- ・ 戦略的提携および合併事業を成功、維持させる能力
- ・ ニッシン債権回収㈱の事業に関する法規制および競争の激化

ただし、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではなく、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響等によって、新たなリスクや不確実な要素が発生する可能性があります。

以上